

胃食道逆流症(逆流性食道炎)

食道への胃内容物の逆流

食道と胃のつなぎ目はちょうど胸とお腹の境目に一致していて、この部分がしっかりと閉まっているために、胃の内容物が食道に逆流する事はほとんどありません。しかしながら、この部分が何かの理由で一過性あるいは持続的に緩む事があり、これが原因となって胃の内容物が食道に逆流してくる事があります。胃は食べ物を消化するために、胃酸をたくさん作っています。この胃酸と一緒に食道に逆流してくるために様々な症状や病変がでできます。

胃食道逆流症の症状と診断

これらの食道への逆流によって起る様々な症状や病変を胃食道逆流症と呼んでいます。最もよく見られるのが、胸やけや胸部の違和感、痛みなどであり、ひどい場合には食道に潰瘍ができています。その一方で、同様の症状があっても、内視鏡検査では全く異常が認められない場合もありますので、総合的な判断が必要になります。実際の診断には、その他の食道疾患のチェックが必要になりますので、内視鏡検査が必要となります。通常の内視鏡検査に抵抗があるようでしたら、経鼻内視鏡による負担軽減も考慮いたしますので、ご相談ください。

胃食道逆流症の治療

胃食道逆流症である事、あるいはそれが疑われる場合には胃酸の分泌を抑えるお薬=酸分泌抑制剤(プロトンポンプ阻害剤)がかなり効果的である事がわかっています。ただ、逆流そのものを改善するわけではないので、継続的に内服する必要があります。患者さんも多いです。それでも改善できないような場合には、その他のお薬の併用や、場合によっては手術によって逆流そのものをおさえる方法を考慮する場合があります。

長く続く胸やけ、胸部の違和感、痛みはもちろんの事、咳や喘息、喉の違和感などの原因になっている事も多いといわれています。逆に内視鏡検査で異常が見つかり、薬を飲みはじめてから、これまでの不快が胸やけであった事を認識されるような方もおられます。また、胃食道逆流症があると生活の質が著しく損なわれることが示されています。上記のような症状であてはまるものがある場合には、主治医に相談なさってみてください。

(文責：大西)